

荷役 5 大災害防止対策チェックリスト

チェックリストは全 3 ページです。4 ページ目に記入例がございますので参考にして下さい。

チェック欄記入方法 : 実施している : 一部実施している × : 実施していない - : 該当なし

災害の種類	チェック項目		チェック (、 、 ×の記入)	改善方針等 (問題点とそれに対する改善方針、実施時期等を具体的に明記してください)
共通事項	保護帽の着用	最大積載量が 5 トン以上のトラックの荷役作業においては必ず保護帽を着用させていますか。		
		上記以外の場合の荷役作業においても保護帽の着用させていますか。		
	耐滑性のある靴の着用	雨天時等滑りやすい状態で作業を行う場合には、耐滑性のある靴(F マーク) を使用させていますか。		
墜落・転落災害	作業計画の作成等	作業計画、作業手順書を作成し、複数の作業員で荷役作業を行う場合は、作業指揮者を配置していますか。		
	作業床等の使用	荷台の上での作業については、あおりに取り付ける簡易作業床や移動式プラットフォーム等を使用するなどし、荷台のあおりに乗っての作業を避けさせていますか。		
	昇降設備の使用	荷台への昇降設備を用意し、最大積載量が 5 t 以上のトラックの荷台への昇降は、昇降設備を使用させていますか。		
		最大積載量が 5 t 未満のトラックの荷台への昇降についても、昇降設備 (踏み台等の簡易なものでもよい。) を使用させていますか。		
荷や荷台上での作業	荷や荷台の上で作業を行う場合は、荷台端付近で背を荷台外側に向けないようにし、後ずさりさせないようにしていますか。不安定な荷の上では移動させないようにしていますか (一度地面に降りて移動すること。) 。			

	安全帯の使用	安全帯を取り付ける設備がある場合は、安全帯を使用させていますか。		
荷崩れ	作業計画の作成等	作業計画、作業手順書を作成し、複数の作業員で荷役作業を行う場合は、作業指揮者を配置していますか。		
	適切な荷付けの実施	積付けの際、積みおろしを行う労働者が安全に積みおろしができるよう配慮した積付けを行い、適切な固定・固縛を行わせていますか。		
	走行中の荷への配慮	荷崩れに繋がりがやすい荒い運転（急制動、急発進、急旋回等）をさせないようにしていますか。トラックで輸送中、適宜停車時に積荷の固定・固縛方法を点検させていますか。		
	荷下ろし時の配慮	ロープ解きの作業、シート外しの作業、荷台のあおりやウイングを動かす場合、荷室扉を開ける場合は、荷台上の荷の落下の危険がないことを確認した後に行わせていますか。		
	教育の実施	荷の固定・固縛方法に係る教育を実施していますか。		
フォークリフト使用時	作業計画の作成等	作業計画、作業手順書を作成し、複数の作業員で荷役作業を行う場合は、作業指揮者を配置していますか。		
	適切な資格者による運転	フォークリフトの運転は、最大荷重に合った資格を有している労働者に行わせていますか。		
		フォークリフトの操作に慣れていない場合は、一定期間は指導者の指導の下で作業を行わせていますか。		
	用途外使用の禁止	フォークリフトの用途外使用（人の昇降等）運転席からの身の乗り出し等の危険な行為をさせないようにしていますか。		
	安全な運転	停止、急旋回を行わせないこと。バック走行時には、後方（進行方向）確認を徹底させていますか。		
	走行場所の区分	自社の施設内にあつては、フォークリフトの走行場所と歩行通路を区分していますか。		

無人暴走	作業手順の作成	トラックの停車、ドライバーの降車、トラック内での待機について、作業手順を定めていますか。		
	逸走防止措置の実施	降車時には必ず逸走防止措置（パーキングブレーキ エンジン停止 ギアロック 輪止めの4点セット）を実施させていますか。		
	逸走時の措置	万一、トラックが動き出したときは、止めようとしたり、運転席に乗り込もうとすることは厳禁とし、周囲への警告を発せさせるようにしていますか。		
	降雪・凍結時の配慮	降雪・凍結した坂道（わずかな傾斜も含む）では、原則として停車させないようにしていますか。		
トラック後退時	確実な後方確認の実施	トラックの後方の状況が十分確認できない場合は、トラックを後退させないようにしていますか。		
	後退誘導による後退時の配慮	後退誘導担当者がある場合、誘導担当者が目視できる状態で後退を行い、声や笛などの音声のみで後退の可否を判断させないようにしていますか。		
	後退警告音	原則として、後退警告音の音量は下げないようにしていますか。やむを得ず下げる場合は、バックモニター等その他の安全対策を併用させるようにしていますか。		
	誘導員の配置	自社の施設内にあつては、誘導員を配置し、トラックを安全に誘導させていますか。		
	走行場所の区分	自社の施設内にあつては、トラックの走行場所と歩行通路を区分していますか。		

上記の事項のほか、荷役作業時に陸運事業者が実施すべき総合的な実施事項が、「陸上貨物運送事業における荷役作業の安全対策ガイドライン」に定められています。本ガイドラインに基づき一層の取組をお願いします。詳しくは、以下HPを参照されるか、最寄りの労働局、労働基準監督署にお尋ね下さい。

<http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/anzen/dl/131017.pdf>

記入例

荷役 5 大災害防止対策チェックリスト

チェック欄記入方法 : 実施している : 一部実施している x : 実施していない - : 該当なし

災害の種類	チェック項目		チェック (、 、 x の記入)	改善方針等 (問題点とそれに対する改善方針、実施時期等を具体的に明記してください)
共通事項	保護帽の着用	最大積載量が 5 トン以上のトラックの荷役作業においては必ず保護帽を着用させていますか。		<ul style="list-style-type: none"> 保護帽着用を着用しない作業者がいるので、 月までに作業マニュアルを改定し、作業者に対する教育を実施する。 新年度より全社的にヘルメット着用運動を展開することとし、意識の啓発を図る。
		上記以外の場合の荷役作業においても保護帽の着用させていますか。	x	
	耐滑性のある靴の着用	雨天時等滑りやすい状態で作業を行う場合には、耐滑性のある靴(F マーク) を使用させていますか。		<ul style="list-style-type: none"> F マークの作業靴を使用させることにはしているが、管理を個人任せにしており、すり減った靴を使用している者がいる。 月までに管理規定を作成し、定期的に交換するようにする。
墜落・転落災害	作業計画の作成等	作業計画、作業手順書を作成し、複数の作業員で荷役作業を行う場合は、作業指揮者を配置していますか。		<ul style="list-style-type: none"> 作業計画書、作業手順書が未作成であるので、至急作成し、 月までに教育を行う。
	作業床等の使用	荷台の上での作業については、あおりに取り付ける簡易作業床や移動式プラットフォーム等を使用するなどし、荷台のあおりに乗っての作業を避けさせていますか。		<ul style="list-style-type: none"> 作業方法を定めていなかったため、 月までに作業マニュアルを作成し、従業員に対し実技教育を行う。 作業員全員に荷役作業時に守るべき事項を記載した小冊子を配布し、作業前に必ずこれを唱和させることとする。
	昇降設備の使用	荷台への昇降設備を用意し、最大積載量が 5 t 以上のトラックの荷台への昇降は、昇降設備を使用させていますか。		<ul style="list-style-type: none"> 5 t 未満のトラックについても平成 年度中に昇降設備を購入し、使用させるようにする。
	荷や荷台上での作業	荷や荷台の上で作業を行う場合は、荷台端付近で背を荷台外側に向けないようにし、後ずさりさせないようにしていますか。不安定な荷の上では移動させないようにしていますか(一度地面に降りて移動すること。)。	x	<ul style="list-style-type: none"> 作業方法を定めていなかったため、 月までに作業マニュアルを作成し、従業員に対し実技教育を行う。 作業員全員に荷役作業時に守るべき事項を記載した小冊子を配布し、作業前に必ずこれを唱和させることとする。